

受賞者の概要

施設部門

<最優秀賞>

○モビリティパーク金沢（福祉車両専門ショールーム）

〔 設置者：株式会社石川トヨペットカローラ 設計者：株式会社タキノデザインワークス 〕

車椅子利用者の目線に立って、高さを工夫したカタログ棚や移乗しやすい椅子を設置したり、トイレ及びケアルームにアメニティ（消毒綿等）を常備するなど、利用者の声を踏まえた取り組みを行っている。

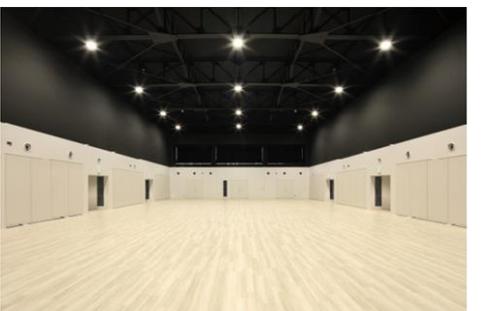


<優秀賞>

○津幡町役場（庁舎）

〔 設置者：津幡町 設計者：株式会社山岸建築設計事務所 〕

新庁舎整備検討委員会の委員である障害者団体等や車椅子利用者から意見を聞き、トイレやスロープ、議場傍聴席等の整備に配慮がなされた設計となっている。車椅子利用者用駐車場及び一般駐車場に隣接する部分から施設出入口までを覆う屋根を設置することで雨や雪に配慮している。



<奨励賞>

○山代スマートパーク（公園施設）

〔 設置者：加賀市、山代プラス

設計者：山代プラス

〕

周囲の道路及び駐車場から公園施設へ向かう動線上で、高低差のある箇所はスロープを設けて段差を解消している。県道に面した位置に歩道、ベンチを設けて、地域の方々が気軽に交流や休憩ができるよう配慮している。



活動部門

<最優秀賞>

○濱本 龍文・真由美

活動開始：平成22年7月

活動地域：かほく市

- ・耳が不自由な御夫婦が、障害の特性や共生社会等の理解促進を図り、共生社会について考えるきっかけにつなげるため、小学校において、ご自身の日常生活における経験談等を話す取り組みを行っている。



<優秀賞>

○かがやき予防塾修了生

活動開始：平成27年11月

活動地域：加賀市

- ・介護予防や認知症等について学ぶ「かがやき予防塾」を修了し、地域のために貢献したいと思う方々が、認知症や終末期医療等の理解促進を図るため、高齢者が集まるサロン等に出向き、寸劇など通した「わたしの暮らし手帳（加賀市版認知症ケアパス）」の啓発活動を行っている。



福祉用具部門（一般部門）

<最優秀賞>

○車椅子に折りたたみ式簡易ひじ掛けテーブルと延長コードリールの取り付け（萩 豊人）

- ・呼吸器を利用している重度障害のある方でも一人の介助者で活動・外出することができるよう作製。
- ・呼吸器や吸痰器、意思伝達装置等の医療機器を外出時に使用するため、折りたたみテーブルとコードリールを、車椅子の構造や形状にあわせて格納できるように工夫した。



<優秀賞>

○ふうーふうー扇（高松 外美子）

- ・食事介助の際、障害のある人や乳幼児、高齢者等が食べやすい温度に食事を冷ますもの。
- ・食事の冷却を自動的に行うことで時短かつ感染症対策にもなる。



○のぼろうくん（原 祐宏）

- ・歩行にふらつきがある方の山歩き等をサポートする。
- ・ふらつく方を真ん中の枠に、健常者を前後の枠に配置し、各自が両側の枠を持ちながら歩行する。
- ・登山だけでなく、高齢者等の歩行訓練や災害時、避難訓練にも活用できる。



<奨励賞>

○楽マグカップ（くまちゃん）（森田 正美）

- ・指の関節が曲がりにくくなり、マグカップを持ちづらくなったことから作製。
- ・持ち手に親指を通して使用し、モチーフとしたクマの耳の部分が支えとなり、持ちやすくなっている。



○お助け君（藏野 春美）

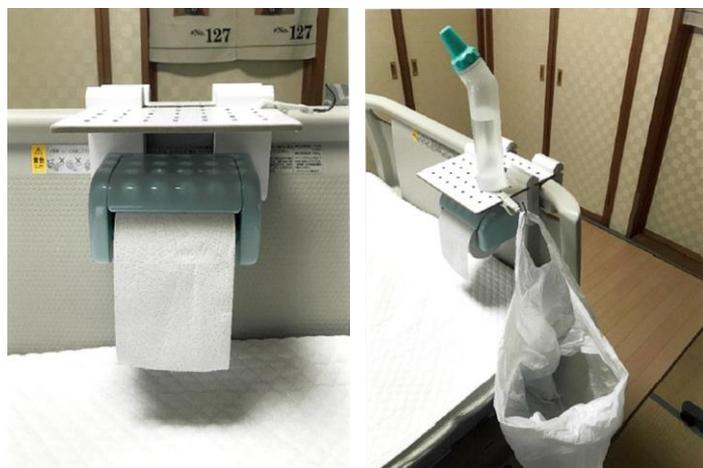
- ・膝につけたベルトを引っ張ることで足を上げ、ベッドから車椅子等への移動を容易にするもの。
- ・膝の屈曲、下肢の持ち上げ・運びを考慮して作製されており、対象者が介助者なしで使用できる。



○おしりふっきー<介護ベッド用>

（高松 外美子）

- ・ベッド上での排泄介助の際、ベッドのフットボードに取り付けて使用するトイレトーパーホルダー。
- ・ホルダー上部に小テーブル及びフックを設け、おしり拭きや汚物入れ袋を設置することができる。



○片手でコンタクト（越後 凌大）

- ・片麻痺の方でも片手でコンタクトレンズを装着することができるよう作製。
- ・「片手でコンタクト」を用いて上瞼を持ち上げて使用する。
- ・素材はスポンジを採用し、上瞼に当てても痛くないよう配慮されている。



○いつでもどこでも片手でおしゃれスマホポーチ （西田 隆人）

- ・片手でスマートフォン操作するためにスマートフォンをしっかりと置くことができる補助具。ポーチとしても気軽に持ち運びできる
- ・ポーチを首から下げ、固定版にスマートフォンを置くことで、片手で使用することができる。



○片手でエプロン（水島 愛唯）

- ・片麻痺の方が着脱しやすいワンショルダータイプのエプロン。
- ・マグネットのボタンとマジックテープをそれぞれ片手でとめることで、ワンタッチで固定できる。



福祉用具部門（企業部門）

<最優秀賞>

○ARAS キッズシリーズ（石川樹脂工業株式会社）

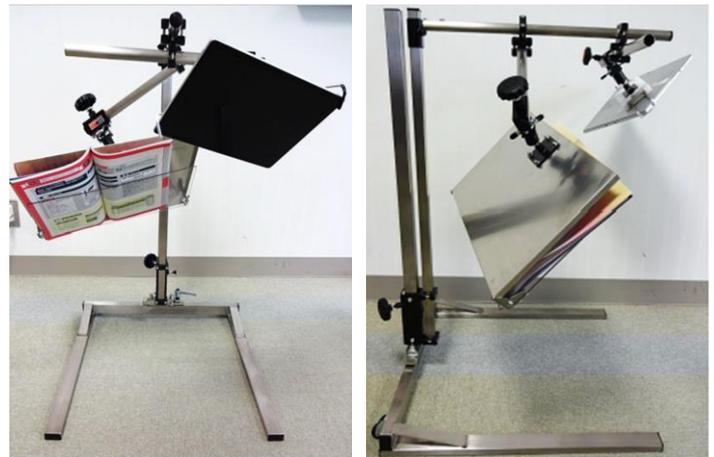
- ・大人から子どもまで安心して使用できる食器。
- ・子どもの小さな手でも特別な注意を払わずに使用できるよう、フォークの先端の間隔を確保する等の工夫がされている。
- ・皿の縁が立ち上がっており、食物がすくいやすく、器を傾けることなく最後まで綺麗に食べることができる。



<優秀賞>

○書見台（川端鉄工所株式会社）

- ・介助者に負担がかからないよう、様々なサイズの本や用紙を差し込むだけで簡単にホールドできる書見台。
- ・下方に向けた設置も可能であり、臥位の対象者が、自分の見やすい位置に書見台を配置し利用する。



○リフォームできる、木の器“ara!”

（四十沢木材工芸）

- ・いつまでも使える器にリフォームできる木製の幼児用食器。
- ・カップには取っ手がついており、安定するための土台やすくいやすさ等を工夫している。
- ・使用者が成長した際に取っ手や土台を削り落として、リフォームできるように作製。
- ・食器にリフォームという概念を取り入れることで学齢期や大人になっても食器を使い続けるというサステナビリティとユニバーサルデザインに配慮されている。



<奨励賞>

○起立着座トレーニングシステム

(金沢工業大学 クラスタ研究室)

- ・脚力低下予防を目的として作製されたトレーニング機器。
- ・VR ヘッドセットの装着とマットセンサーを採用し、ゲームを楽しみながら、起立着座や足の踏み出し、膝の振り上げを行い、自宅で簡単かつ楽しみながらトレーニングできるようになっている。

